

2025(令和7)年度

徳島文理大学 比較文化研究所 展覧会(第二部)

華咲く!

江戸時代

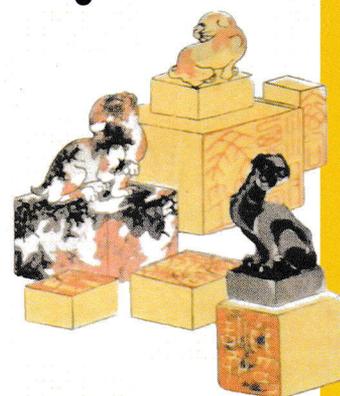
本と文学の宴

〜葛屋とその仲間たち〜

ご政道が設けた
コンプライアンスを
乗り越えて!
華を咲かさん、
粹と意気。



入場無料



展示物の一部紹介

- 志度ゆかりの異才・平賀源内の茶化し
談義本／風流志道軒伝 根南志具佐
- 江戸のマルチタレント・山東京伝の粹
洒落本／傾城鱗 客衆肝照子
- 出版界の風雲児・葛屋重三郎の意気地
注釈書／万葉集略解
- 錦絵／俵屋遊女道中(歌麿画)
- 戯作三昧! 曲亭馬琴が貫く信と義と
読本／南繪里見八犬伝
ほか

2025

12.1(月) - 19(金) 10:00 - 16:00

※月～金のみ。土日は閉館。

場 所 = 徳島文理大学高松駅キャンパス(JR高松駅横)
西棟6階 村崎サイ記念図書館内 資料展示室

入 場 無 料 ※学外の方は「免許証」「保険証」等の身分証明書をお持ちください。
図書館入館時の手続きに必要です。

お問合せ先 = 徳島文理大学高松駅キャンパス 087-899-7100(代表)
担当:文学部日本文学科 倉本 昭・下田祐輔・青木 毅

交通アクセス = JR高松駅から徒歩5分 ※大学に駐車場はございません。

主 催 = 徳島文理大学比較文化研究所



華咲く！

江戸時代

本と文学の宴

～ 葛屋とその仲間たち～

令和7年度徳島文理大学

高松駅キャンパス開学を記念して、

本学所蔵の貴重な古典籍を公開します。

現在放送中の話題のドラマでおなじみ、

葛屋重三郎の手がけた出版物を中心に、

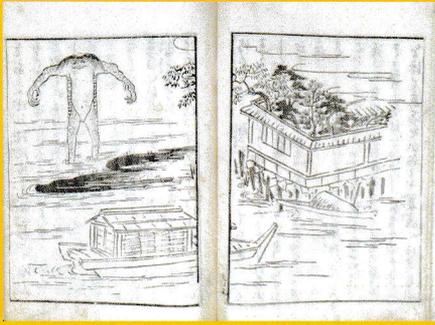
寛政から文化年間にかけて江戸つ子をうならせた

本の数々を間近にご覧ください。

本の風合いまでリアルに感じたら、

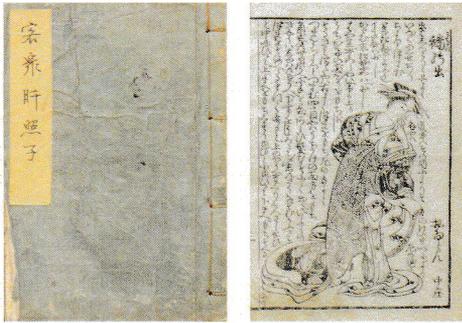
江戸つ子の粋と心意気が伝わってくるはずですよ。

『根南志具佐』 宝暦13 (1763) 年刊



平賀源内作。
閻魔さんが恋をして起こる騒動劇。

『客衆肝照子』 天明6 (1786) 年刊



山東京伝作。
吉原の人々を描き分けた傑作洒落本。葛屋版。

『傾城觸』 天明8 (1788) 年刊



山東京伝作。吉原遊女29人のカタログ。葛屋版。



『万葉集略解』

寛政8(1796)～文化9(1812)年刊



橘千蔭著。
一版元の葛屋重三郎は
完結を見ず他界。

『南絵里見八犬伝』

文化11 (1814)年～天保13 (1842)年刊



曲亭馬琴作。
日本古典文学史上最大の長編。

『なぞつくし』

明治13(1880)年刊



幕末から明治にかけ活躍した絵師・歌川芳虎の
ペーソスあふれる「なぞなぞ本」。

『手品独稽古』

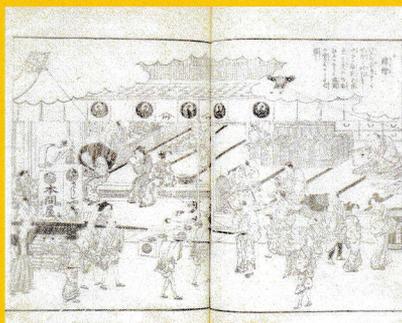
江戸末期刊



一梅斎芳晴画。
手品?というより生活裏ワザ百科。

『江戸名所図会』

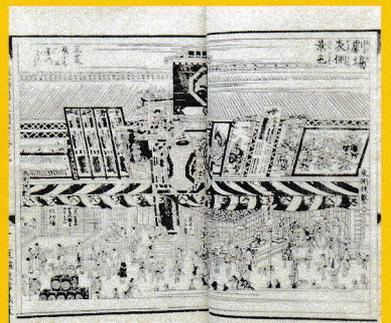
天保5(1834)～天保7 (1836)年刊



長谷川雪旦画。
江戸を代表する本屋・鶴屋の店先。

『劇場訓蒙図彙』

享和3(1806)年刊



式亭三馬著、歌川豊国・勝川春英画。
江戸の芝居小屋前ににぎわい。

※このほかにも多数展示しています。